

11/30 坂田ハイツ創立50周年 記念式典・祝賀会を盛大に開催

坂田ハイツの創立50周年記念式典・祝賀会が、坂田自治会会館で執り行われました。当ハイツは昭和49年の入居開始以来、自主防災や伝統行事を通じて、独自のコミュニティを築いてきました。

式典で又吉龍弘実行委員会会長は「地域活動をさらに発展させ、『住んでよかった』『住みたい』と思われる仲間を増やし、西原町一の行政区を目指しましょう」と述べました。続いて、長年にわたり地域へ献身的に貢献された方々への功労者表彰が行われ、その功績を称えました。祝賀会では、琉舞やエイサー、合唱などが披露され、会場は住民が一体となって盛り上がりしました。

また、この節目を記念し発行された記念誌「半世紀の感謝」には、分譲当時の貴重な写真や街並みの移り変わりなどが収録されています。全世帯に配布されるとともに、地域の貴重な歴史資産としてデジタルアーカイブでも保存・継承されていきます。



3/14.15 地域ぐるみで 「さくらねこ活動」

地域の野良猫を捕獲し不妊去勢手術を行い、元の場所に戻す活動(TNR)が津花波自治会で行われました。

当自治会では、これまでに野良猫の増加による被害への対応に頭を悩ませていたところ、独自に活動している個人と地域がつながりこの活動が実現しました。

当日は、「つはなは『さくら猫』プロジェクト」と称し、地域のこども達参加のもと、捕獲器の準備から設置、捕獲まで行いました。

また翌日には、手術を終えた6匹の猫が元の場所へ戻っていく姿を参加者全員で見届けました。



※当活動は、公益財団法人「どうぶつ基金」の事業を活用し、手術費用を捻出し実施されています。

3/22 創作演劇 「さわりん」と運玉義留 10周年

今年で10周年を迎えた、西原町の小中高生がプロデュースする創作演劇「さわりん」と運玉義留の公演がさわふじ未来ホールで開催されました。

会場は満員となり、出演したこどもたちは、数ヶ月にわたる練習の成果を存分に発揮し、自分たちで作り上げた舞台を堂々と演じました。演出の一つとして、町長が西原町の魅力をラップで紹介するシーンでは、会場がさらに盛り上がりしました。

最後には、観客の拍手と歓声が響き渡り、才能あふれるこどもたちの情熱が伝わる素晴らしい舞台となりました。



3/22 どれが一番重い?ジャガイモ勝負!

10個のジャガイモの総重量を競う「第15回ジャガイモスーブ」(小波津自治会主催)が、小波津集落センターで開催されました。会場には、丹精込めて育てられた自慢のジャガイモが数多く持ち寄られました。

審査の結果、呉屋健さんが2年連続1位に輝きました。呉屋さんは「2連覇できて最高。土壌作りからこだわり、雨の少ない11月後半に植えるのがコツ。来年は3連覇を目指して頑張りたい」と笑顔で語りました。

会場では、地域の皆さんによるジャガイモ料理も振る舞われ、参加者はおいしく味わいながら交流を深めていました。



左から、
1位 呉屋健さん
2位 小波津盛一さん
3位 城間虎雄さん

3/26 地域の交通安全活動で 県の功労者表彰を受賞



3月12日に行われた「令和7年度沖縄県交通安全功労者等表彰式」(沖縄県交通安全推進協議会主催)において、西原町交通安全推進指導員の仲里恵子さんが交通安全功労者として表彰され、その報告のため町役場を訪れました。

この賞は、交通安全に顕著な功労のあった個人および団体に贈られるものです。仲里さんは、10年以上にわたり、登校時間帯に校区内の通学路にある横断歩道において、児童や生徒の交通安全活動に尽力されています。

3/30 西原町の未来を展望する 「まちづくり講演会」を開催

町民参画による西原町の豊かなまちづくりを実現することを目的として、西原町まちづくり推進協議会(宮里佳幸会長)主催による「西原町まちづくり講演会」が西原町さわふじ未来ホールで開催されました。

「沖縄の観光振興」をテーマに(一財)沖縄観光コンベンションビューローの浜田京介会長と新垣光栄沖縄県議会議員が登壇しました。

観光を通じたまちづくりの本質や大型MICE施設がもたらす経済波及効果、交流人口の拡大が、本町のまちづくりにどのような新たな可能性をもたらすのかについて講演が行われました。

会場には100名を超える町民や企業関係者が参加し、西原町の豊かな未来を考える貴重な機会となりました。



3/28 採れ!踊れ!食らえ! 「HonZen Fes 2026」開催

「農業・食・音楽」が融合した、大人のための野外フェス「HonZen Fes 2026」が本然農園(津花波)で開催されました。同フェスは、大人が本気で遊びながら、農業のかっこよさを体感し、もう一度農業に「若者という熱狂を」という想いのもと企画されたものです。5回目を迎えた今年は、過去最大規模となり、町内だけでなく県外からの参加者や家族連れなど多くの人で賑わいました。

当日は晴天に恵まれ、参加者は野菜の収穫体験を楽しみ、採れたての野菜をバーベキューで堪能しました。

ステージでは、お笑いLIVEや西原町民バンド「うんたまはんだま」がパフォーマンスを披露し、フェスを盛り上げました。

また、会場には町内企業の出店ブースも並び、自慢の特産品で来場者を楽しませていました。



3/22 どれが一番重い?ジャガイモ勝負!

10個のジャガイモの総重量を競う「第15回ジャガイモスーブ」(小波津自治会主催)が、小波津集落センターで開催されました。会場には、丹精込めて育てられた自慢のジャガイモが数多く持ち寄られました。

審査の結果、呉屋健さんが2年連続1位に輝きました。呉屋さんは「2連覇できて最高。土壌作りからこだわり、雨の少ない11月後半に植えるのがコツ。来年は3連覇を目指して頑張りたい」と笑顔で語りました。

会場では、地域の皆さんによるジャガイモ料理も振る舞われ、参加者はおいしく味わいながら交流を深めていました。



左から、
1位 呉屋健さん
2位 小波津盛一さん
3位 城間虎雄さん

4/1 シェアサイクルの利用推進に関する 協定書を締結しました!

西原町と株式会社プロトソリューションによる「シェアサイクルに関する連携協定締結調印式」を開催し、協定書を締結しました。

西原町では、令和5年度から令和7年度の3年間、「西原町シェアサイクル活用推進事業」としてシェアサイクルに関する実証事業を実施し、現在町内に22箇所のステーションが設置されています。

町内のステーションはホームページからご確認できます。ぜひみなさんごご利用ください。



登録はこちらから

▲崎原町長(左)と西村和浩取締役(右)

4/3 JAおきなわ 親子健康手帳ケース贈呈式

JAおきなわより、親子健康手帳ケース250冊の寄贈がありました。親子健康手帳ケースのデザインは毎回変わっており、今年は草花をあしらった心安らぐデザインのケースとなっています。

JAおきなわ西原支店の砂川剛支店長は「子育て支援のために毎年寄贈させていただいています。これからも継続してできるよう頑張っていきます」とお話ししました。



▲親子健康手帳ケースのデザイン

